

地域活性化の現場で求められている人材像について

○多様な個々の人材

- ・地域にいる一人一人が人材であり、行政人、企業人、教育人、福祉人、地域人といった様々な立場での協力・連携が地域活性化につながる
- ・過疎地方型では1%の積極的でない人達も巻き込んで全員で地域活性化に取り組むことが重要であるし、逆に、大規模な都市型では1%の層が関心を持って動いてくれれば大きなイベントが開催できるなど、キーワードは「1%」
- ・地域の課題に積極的に関わっていく大学生が必要だが、現状では、消費者として閉じたコミュニケーションの中にいる
- ・地域人材として大学生はいるが、地域に出方がわからず遊休化している
- ・ボランティアの受け止め方、活用の仕方が重要

○リーダー

- ・地域発展のために何が必要か全体の展望を持てる力と長期的な視野を持ち、課題解決のために全体のとりまとめを行う
- ・上から主導するのではなく、下からサポート型のリーダーシップを持つ
- ・ビジネス経験があり、そこで培った専門能力（マーケティング、セールス等）をいかす
- ・地域の課題解決に必要な利害関係を調整することができる
- ・地域住民を納得させ、活動に巻き込む
- ・対内的・対外的な信頼関係を構築するなど、高いコミュニケーション能力を持つ
- ・地域で活動する人材を良く知り、人材同士のつなぎを行える
- ・地域と行政・企業等との間で、協働に向けてそれぞれの考え・思いをつなげる

○リーダーを支える層(フォロワー)

- ・能力、世代など多種多様な人材が必要
- ・協働というネットワーク組織を維持するためには、事務局的功能が必要であり、能力、世代などバラエティに富んだ人材が必要
- ・地域において固定的に人を抱え込むことはできず、プロジェクト単位別に人を集め、協働プロジェクトチームを作っていく
- ・地域課題について、共有・課題解決の糸口の発見を促す場の設定
- ・課題に対して地域内外の適切なアドバイザーや支援人材を紹介し、地域とつなげる

※第1回研究会での各構成員からの発言を基にまとめたもの。今後の研究会での意見交換等を通じて、修正・追加。